



営農NEWS



ネギの茎葉病害（べと病、さび病、黒斑病、葉枯病など）の発生に注意しましょう

ネギの「べと病」や「黒斑病」、「葉枯病」は被害残渣とともに、「さび病」は被害植物上で越冬し、降雨が続いて発病好適条件になると発生してきます。このため、前年（前作）に多発生した圃場では、発生が多くなる傾向があります。

これら病害の特徴として、べと病では葉に、少しぼやけた紡錘形で大型の黄白色病斑を形成し、その上に薄い灰白色のかびを生じます。その後、病斑はやや暗褐色～紫黒色に変色し、病斑部の周縁はやや明瞭となって、葉全体が汚く葉枯れをおこし、激しいと株全体が枯れてしまうこともあります。さび病は、葉身に淡黄色～黄褐色の明瞭なやや膨らんだ病斑を形成します。黒斑病と葉枯病は、いずれも中央部が紫褐色～黒色で、周りが淡黄色の非常によく類似した病斑を形成します。その後、これらの病斑は長くひし形状に変色し、大きく枯れこみます。なお、べと病の病斑跡に、二次的に黒斑病や葉枯病の発生することがあります。また、葉枯病の被害病徴として、中心葉などに退緑小斑点や黄緑色の不規則な斑紋（黄色斑紋症状）を生じ、春先や秋のやや低温期に降雨が多いと発生しやすい傾向があります。

これらの病害は、毎年必ず多発生するというわけではありませんが、ネギ畑では一般的に発生する病害で、梅雨前から梅雨期にかけてと、秋の長雨の時期を中心に、べと病やさび病では比較的低温の場合に、また、黒斑病では比較的高温の場合に、多発生しやすい傾向があります。

気象の1ヵ月予報（5月6日発表）によると、「天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。日照時間は平年並または少ない確率ともに40%」と予想され、各病害の発生にやや適する条件と考えられます。今後、天候不順が続く場合には、病害の発生に十分な注意が必要です。

べと病は発病好適条件下では急速に広域で蔓延しますし、黒斑病や葉枯病、さび病も多発生してからでは薬剤防除の効果がなかなか上がりにくい病害です。このため、降雨の続くような好適条件が予想される場合には、降雨前や雨の合間に、薬剤の予防散布や発病初期の防除に努めてください。

＜防除のポイント＞

- 1) 圃場の排水を良好にし、多肥や肥切れを避けて、適切な肥培管理に努めます。
- 2) 初夏～夏どりネギについては、**特に収穫前日数に注意して薬剤を選択してください。**
- 3) 薬剤防除は、発病前または発生初期に重点を置いて、薬液が付着しやすいよう展着剤を加用して行います。
- 4) 薬剤耐性菌の出現を抑制するため、分類（コード）の異なる薬剤でローテーション散布を行いましょう。

表1 ネギべと病の主な防除薬剤

（令和3年5月11日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
ジマンダイセン水和剤	600倍	収穫14日前まで / 3回以内	M3
ダコニール1000 ※	1,000倍	収穫14日前まで / 3回以内	M5
ランマンフロアブル	2,000倍	収穫3日前まで / 4回以内	21
アリエッティ水和剤	800倍	収穫3日前まで / 3回以内	P7
フォリオゴールド ※	800～1,000倍	収穫14日前まで / 3回以内	4とM5
プロポーズ顆粒水和剤 ※	1,000倍	収穫14日前まで / 3回以内	40とM5
オロンディスウルトラSC	2,000倍	収穫7日前まで / 2回以内	40と49
アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫3日前まで / 4回以内	11

注1) 薬剤名の※印は、有効成分にTPNを含みます。有効成分の総使用回数に注意してください。

注2) 表1及び2の分類欄には、FRACコードを記載しました（コードが2つは混合剤）。

表2 ネギさび病、黒斑病、葉枯病の主な防除薬剤

（令和3年5月11日現在）

さび病	黒斑病	葉枯病	薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
	○	○	パレード20フロアブル	2,000～4,000倍	収穫前日まで / 3回以内	7
○				2,000倍		
○	○	○	アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫3日前まで / 4回以内	11
	○	○	ポリベリン水和剤	1,500倍	収穫14日前まで / 3回以内	19とM7
○	○	○	ダコニール1000 ※	1,000倍	収穫14日前まで / 3回以内	M5
○	○		ジマンダイセン水和剤	600倍	収穫14日前まで / 3回以内	M3
○	○		オンリーワンフロアブル	1,000倍	収穫14日前まで / 3回以内	3
	○		オキシラン水和剤	600倍	収穫14日前まで / 5回以内	M1とM4
	○		ロブラール水和剤	1,000～1,500倍	収穫14日前まで / 3回以内	2

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



JA全農いばらき

農機営農支援部 営農支援課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040